

# 未来から世界を示す

現在世界の人口は70億を  
超えて食料や資源が逼迫す  
る勢いです。

人類の食糧危機はすぐそこ  
まで来ています。

ご存知の方も多いかと思  
いますが、日本で「好適環  
境水」の技術で海水を使わ  
ずに海水魚の養殖に成功し  
ています。

養殖場は山の中でも可能に

なる技術です。  
魚に必要な最低限の成分を

混ぜた「好適環境水」  
で海水を使わない養殖  
が可能、養殖の場所を  
選ばない。病気になる  
づらく抗生物質が不要  
で安定的に生産できる  
技術です。

これは岡山理科大学  
の山本俊政准教授の研  
究です。

海産プランクトンを淡  
水魚のエサに使うため  
学生が提案した実験が  
発端となったものです。  
海水には60種の元素

## 好適環境水

がある。

塩分濃度だけでなく、水素  
イオン濃度も関係している。

「好適環境水」は「原始水」  
に近く高塩分  
濃度は今ほど  
高くなかった。

魚の細胞には  
ナトリウムや  
塩素は殆んど  
ありません。

カリウムやカ



カリウムやカ

は25度が必要でエネルギー  
の問題があります。

先入観や固定観念を取り  
払ったところに未来が開け  
るものです。

また、未来型の「植物工  
場」の技術も進んでいます。  
工場には、現在コスト的な  
採算の問題があります。

植物工場にとって重要な

東京電力福島原子力発電所  
事故調査委員会の報告書によ  
れば、科学技術の先進国の日  
本で起きた、世界史に残る原  
子力の重大事故は、日本

の根本的な問題が露呈  
したものであった。

これまで様々な事故が  
あつたが多くの場合、対応が不  
透明で組織的な隠蔽が行われ  
原子力は安全で、事故など起こ  
らないとし、50年に渡る一党支

## 国会事故調

重要な使命となり、国民の命を  
守る安全対策が先送りされた。

「想定外」「確認していない」の  
起きるはずのない事故がなぜ起

きたのか。

領土問題が発端で国家間  
で戦争に至る歴史が多い。  
日本は自力で戦う意思と能  
力が備わっているとは思え  
ません。愚かな人間が政治  
的・経済的に挑発をするも  
のです。国も同じです。

他国の軍隊に依存して対峙  
はないのでしょうか。

政府、規制当局、東京電力の  
世界、人類に対する責任感の  
欠如で、事故は正に「人災」であ  
る。

国民の生活を守れなかった政  
府、原子力関係機関、社会構  
造や日本人の思い込みを今こ  
そ改革し、この国  
の信頼を立て直  
す機会となるこ  
とを期待します。



とを期待します。

(有)西川経営オフィスサービス  
中村会計  
事務所便り  
2012年9月24日 (月) NO. 270  
地域から明るい未来を作ろう